

## 特集 SPECIAL FEATURE

## 現場は大変！ - - 私の奮闘記

建築の仕事に身を置く人にとって、現場はすべての基本といっても過言ではありません。現場に出て考えることの重要性を否定する人はいないでしょう。しかし、実行予算通りにいかない、図面通りに納まらないといった具合に、難題が待ち受けているのが現実です。それぞれの現場での奮闘ぶりを寄稿してもらいました。

## Y邸アパート新築工事奮闘記

小池 純司( I部14期)  
(株)スリーエフ

2001年盛夏、地鎮祭の直前。「見積合計は1億5千万です。」「え！！予定の150%以上だ。」

施主のY氏は会社の近所の方で、クリーニング業を営んでいる。約1年前、建替えの相談を受けた。当時の我社は、設立から15期目、施工会社として序々に成長し、工事の物件数も多く抱えている状況だった。施主からは、店舗、賃貸、自宅の3要素の他、多岐な要望が出され、ある程度の規模になることも予想された。完成度のより高い設計を行うために、自らは設計

築理会ではホームページを開設しています

URL=<http://www.chikurikai.org>

掲示板やフォーラムなど、積極的な参加をして、ご活用ください。また、ご自身のHP等へのリンク希望や情報提供、その他築理会活動全般へのご意見も募集しています。各委員会へのメールアドレスもごございますのでご利用下さい。

築理会報もアップされていきますので、こまめなチェックを！

から手を引くのが賢明と判断し、一緒にグループをつくり活動していた入学同期、13期の薩田に白羽の矢を立てた。彼の飯田橋の事務所で早速相談。その場で、基本構想が提案



された。なるほど。これで行ける！と私は確信した。

資金計画もアクロバチックな綱渡りの連続だった。切れた、と思った綱を真暗闇から手さぐりで繰り寄せ、どうにか経理の知恵と最後は執念で銀行融資を取り付けた。その後、薩田建築スタジオが設計契約を結んだ。

解体工事が進み、地鎮祭、工事着工が直前に迫るが、実施設計図書が揃わない。薩田はポリビアへ、帯広のワークショップへと東奔西走。仕方ない、暫定的に詳細を決め、予算を算出した。

Y邸アパート新築工事に於いて、設計者は「家造りのための5つの提案」をしている。

1. 耐久性のあるコンクリートの使用。
2. 石油系建材の利用を抑える。左官の多用他。

## 「東京理科大学建築学科名簿」発行

～平成14年度版 築理会名簿と野田建築会名簿合冊～

長年の懸案でありました、工学部建築学科同窓会「築理会」と理工学部建築学科同窓会「野田建築会」の名簿が平成14年版から合冊として発行されました。実社会におきましては、工学部卒も理工学部卒も同じ理科大卒として受け入れられています。従いまして名簿が片方だけしか載っていないのは調べるのに不便だと以前から言われていました。今回、技術的なこともあり、完全に統一はしていませんが、会員名索引と勤務先索引は一体化しています。利用価値は大いに高まったと思われるので、築理会会員の方々の活用を期待しています。なお、この形式の名簿は隔年発行を予定しています。従いまして、来年度版は訂正補充と新卒分のみ名簿とさせていただきます。

この名簿は会費納入会員に発送させていただいておりますので、会費3500円を納入していただき、新しい名簿をご利用いただければと思います。

築理会



3. 合板使用を極力少なくする。森林保護他。
4. 自然採光、自然換気を十分に取入れる。
5. 都市の水を考える。路地の植栽。

この5つの提案が、建築コストにどのように影響するか、検証することは、紙面の都合上別の機会に譲る。しかし、基本プランの段階で覚悟はしていたものの、自然採光、換気のために有効な手段である、建物を南棟、北棟に分け、3階部分をブリッジでつなぐこと、又中央東西に、東京下町の路地を設けることが、これほどまでにコストアップにつながるとは！！

工事費も工期も決まっている。見積りはオーバーの状況で、8月末工事着工。引続き、実施設計そして再見積り、設計変更に伴う再見積りが延々と繰り返された。が、予算額にはまだ程遠い。そうこうするうちに11月になってしまった。施工内容が決まらないので、施工図の承認も受けられず、本来明るい性格が取り柄の現場監督のMも日に日にやつれ、精彩を欠くようになってしまった。「どうなっているのだ。やりかえて下さい。」確が電話で決めて頂いたはずですが。「そんなことはない。勝手にやるな。しかし進めなければ、工期内に引き渡せません。」「こっちも徹夜で考えているんだ。」「もう限界です。これ以上は現場でも責任が取れません！」

雪の便りの聞こえる11月末、漸く可能性のある予算に近付いた。構造はもちろん削ることはできない。意匠的にも庇、格子など、中止した部分は一部分だ。内容の変更で減額した。施主サイドから追加予算も出た結果だった。・・・しかしまだ数百万円が不足。仕上げ工事後半の材料、器具、外構工事などで、再提案～再見積り～現場の施工調整が繰り返し、繰り返し、引渡しまで続いた。竣工直前、監督のMが会社の階段から転落。精

も魂も尽き果てた、という姿だった。軽傷で済んだのが幸いだった。平均的な工事物件と比較すると、設計サイド、施工サイドとも数倍のエネルギーを費やしたとい



える。

4月、予定通りクリーニング店の営業が再開され、7つの貸室も埋まった。7月、施主主催のビールパーティーの招待を受けた。3階オーナー宅の広いバルコニーに10数名。夏風が本当にすがすがしかった。

PS お勧めの店。当社施工のそば処。

古材の柱、梁を使用。冷酒が落ちていて飲める店です。「そば処田加瀬」西武池袋線練馬下車。練馬区練馬1-7-5グランコンフォート練馬1階

## 「誠意」をもってお客様の為に

根岸 良広 (I部20期)

積水ハウス(株) 群馬支店 建築課

住宅業界に身を置いて17年が経ちます。お客様の満足を第一に考え、現場では安全 第一を唱える基本は今も変わっていません。大きな現場と違い、90日～120日前後の工程サイクルで移り変わり、常時複数の工事監理をしています。住宅業界も、入社後のバブル期を経て、着工戸数も減少し、ますますお客様の満足度が重要となっています。これまで私が経験した(累積引渡し棟数800棟くらい)事から言うと、問題・悩みはたくさんあり、この紙面では「住宅建築の現場監督とは」の私観を書きます。

現場監督とは、工事監理者として施主様との間で、施主様が満足する様、工事進行をコーディネートする事に行きつきました。(他社においては、業務の違いがあるでしょうし、合致しないかもしれません。)品質の高い建物ができても、お客様が満足しない、という特殊性があります。それは打ち合わせ内容であったり、お客様との人的対応であったりします。高品質の建物は絶対条件です。工事中、お客様が満足する様コーディネートしていく事が大切です。それは「誠意」を持って、「お客様の為に」やる事に回帰します。難解に考えても最後は単純なここに行きつきました。全国各地の関係者の皆様、住宅であってもビルであっても、良い建物が残る様、頑張りましょう。

## 市民参加でつくる文化センター

長谷川 祥久 (I部25期)

香山壽夫建築研究所

平成10年のプロポーザルから私が担当してきた可児市文化創造センターが竣工し7月にオープンした。岐阜県可児市は愛知県との県境に位置し木曾川のほとりにある。現在人口10万人弱で今も増え続けている。市民の自主的文化活動を発展させ、芸術やまちづくりにまで高めるための拠点施設としてこれは計画さ



れた。名古屋大学の清水裕之教授の協力により、市は計画の初期段階からワークショップを行い市民と一緒に本当に必要なものを探ってきた。2つの劇場以外に演劇、音楽、美術、映像、情報等の練習、制作活動が行える諸室が整備されている。

主劇場は、規模1000席のプロセニウム型式で演劇も音楽も高次元で両立する多目的ホール、小劇場は、規模300席で、可変型舞台と囲み型客席配置の多目的ホールである。

プロポーザルでは特に、市民参加を可能にする設計方法と建築的アイデアを求められた。私達はそれに、「現地に滞在して設計とワークショップを繰り返す」「施設全体を覆う大きな屋根をかけ、その下の諸施設を話し合いながら自由に移動させて設計する」という2つの提案をした。基本設計1年、実施設計1年、工事施工2年の間、様々な形で市民との対話を繰り返し、同時に劇場や美術の専門家と検討をして最終的な形を見出してきた。

最近では必然となってきた市民参加であるが、私的建築であれば施主と対話しつつ設計を進めるのは当然の事である。公共建築においてはその施主が一義的に定まらないために、このような過程を経る事で公共性という「見えない施主」を捕まえようとしているのかもしれない。ただし市民参加型の過程を経たからといって、その建築が正当化される物ではない。しかし少なくとも、多種多様な立場や意見の人と対話を繰り返す事は、同時に設計者側が建築の数々の部分や全体について自身のなかで整理をし続ける事であった。プロポーザル時の提案である大屋根は、天井に銅板を用いて実現している。

もし御訪問されるのであれば、近くにまだ店もなく、施設内のイタリアンレストラン「カテリーナ・ディ・アーラ」のテラスがお勧め。ワインとパスタは結構いけます。(ワインセレクトは私の意見も入ってるし。)

## 『職人と一緒に配筋した』貴重な経験

金子 聡 (I部25期)

鹿島 建築設計エンジニアリング本部 構造設計Gr.

私が現場勤務していたのは1999～2000年の2年間で、入社8～9年目の時でした。「若手設計者は現場を知っておく必要がある」との方針により、工務係としての現場勤務が始まりました。

現場JV規模は大きく、躯体はSRC+RC造(一部S造)で楕円型のプールがいくつもあり、屋根はシステムトラス+膜構造、と様々な構造を含み、非常に複雑な建物でした。主な担当職務は、躯体図作成と配筋の検討・確認等でした。建物の性格上、配筋は非常に複雑で、全体として同じ納まりの箇所は少なく、さらにスケッチを書かなければ納まらない所が多く、躯体図作成だけでも非常に苦労しました。

また実際の配筋作業に関しては「どうしたら自分の意図したように配筋してもらえるか」ということも苦心した点の1つです。配筋をひろう前に職長と細かく打合せをし、配筋段階に応じて何回も配筋検査をおこなうよう努力しました。それでも特殊な部位については上手くいかず、結局職人と一緒に配筋することになりました。鉄筋を担いで鉄骨や足場の上を歩き廻って配筋し、組上がった寸法を計測しては事前にかぶりをチェックしました。ハッカー、メジャー、電卓、デジカメ持参で現場へ急行が度々です。夏場は倒れるかと思うほど暑く、お腹の脂肪もとれ少しスリムになりました。

今考えると、管理上有効な手段が他にあったのかもしれない。ただ「自分で配筋してみる」ことにより、配筋検査や現場見学だけでは得られない貴重な経験が得られ、建築の原点である物作りの楽しさを今までの何倍も実感することが出来ました。この経験を、今後活かしたいと思います。



「名古屋港水族館第II期新築工事」

## 不定期連載 現場へGO! (第2回)

理科大OBがかかわる現場を訪問して、プロジェクトをレポートするこのコーナー。2回目となる今回は、築理学会報委員会の大野紋子が神楽坂へ向かいました。

### 「東京理科大学 森戸記念館」

懐かしの神楽坂を登り、毘沙門天手前を右手の路地へ。ご存知の方も多いと思われる伊勢藤の奥つきあたりが今回の現場である。タイトルの通り、私たちの母校、東京理科大学が建築主のこの建物だが、このプロジェクトに関わっている方々も理科大OBという、理科大生の理科大生による理科大生のため(だけではない)の施設である。



写真右が伊勢藤

この施設は理科大OBでもある株式会社モリテック代表取締役 森戸祐幸さんの寄付によるもので、森戸さん自身は平成13年3月20日、東京理科大学より教育研究の発展に大きく貢献されたということで名誉博士(経営)の称号を授与されている。そして今回、現場を案内して下さったのは、東急建設株式会社 柏山貢四郎さん(昭47卒平野研)、浦山千明さん(昭56卒平野研)、堀上陽子さん(平7卒鈴木研)の三方だ。柏山さんは営業を、浦山さんは施工を、堀上さん

は設計を担当されている。現場を訪問したのは7月末、外に出ているだけで痩せられそうな、気温35という猛暑の中であった。

敷地面積542.64m<sup>2</sup>、地下1階/地上3階、延べ面積1,271.35m<sup>2</sup>の鉄筋コンクリート造の施設で、この日は屋上部分のコンクリート打設工事が行われていた。



屋上の様子

年末竣工予定で国際会議場、事務所等の用途として使用される。間口は狭いが敷地がちょうどくの字に折れたような格好でそれに合わせた形の奥行きのある建物である。神楽坂という土地柄、計画段階から近隣住民との話し合いは幾度となく繰り返されたようだ。また、工事が始まってからも江戸時代のものと思われる茶碗等が出土されたため遺跡調査に2ヶ月が費やされ、その間作業は中断させられた。今現在も近隣の飲食店の営業時間に合わせて、午後12時から14時まで作業は停止、17時以降の作業は行わないという決まりになっている。路地奥であるため、搬入口も狭く今でこそ4tトラックが入っているが、工事当初は2tトラックで作業が行われていたようだ。様々な制限が課せられた一筋縄ではいかない現場であるが、案内し



設計担当の堀上さん

て下さった三方はとても生き活きとしていらっしやっただ。お話をいろいろと伺う中で、どの方も建築が好きという以前に人と接することが好きなのだということが顔から滲み出ていた。もうそれだけで理科大OB万歳である。

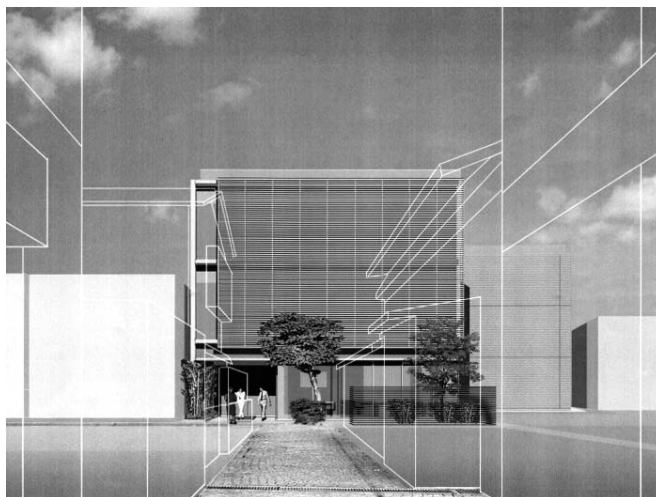
神楽坂はそこに暮らす人もいれば、外来者もいて、昔ながらの飲食店や新しい商業ビル、オフィスビルも学校もあれば料亭もある。代官山や青山、麻布十番などと街の構成は似ているが、それとは違った魅力を放っている『粋』な街である。理科大で学んだ人たちにとって神楽坂に対する思いは多種多様であると思うが、私にとっては古いものも新しいものも取り入れる『包容力』のある街という感覚があって、在学中は神楽坂全体を理科大のキャンパスのように考えていた。(運動場が無いかわりに飲み屋がたくさんある!!)ただ、私が感じる包容力とは時代的・文化的といったソフトの面であって、ハードではない。神楽坂の街並を変えてしまうような建築はやはり問題があると思う。法によって道路の幅を広げなければならなかったりすることも建物をセットバックさせて高さ確保することも神楽坂には無意味なことのように思える。

森戸記念館が新しい文化の発信地となることを期待したい。国際会議場や事務所等の施設が今後どのよう

に利用されるかはわからないが、理科大の関係者に限らず、誰でも気軽に訪れることのできる場所であってほしい。そして多くの人に知ってもらうことで神楽坂の1つの顔となる日が来るといい。

建築学科2部では4年次の設計製図で神楽坂の複合施設という課題がある。自分の作品を思い出しつつまた神楽坂に足を運んでみてはいかがですか？

森戸記念館の現場を横目に、冷房のない伊勢藤で自然の風を探し、静かにお酒を飲むのも『粋』です。



(完成パース)

## 最新 News

### 違法集成材に気をつけて

安達 功 (I部21期)  
日経BP社

JAS法に違反した約33万本のドイツ製集成材が日本市場に出回っていることが、8月27日の農林水産省発表で明らかになった。

民間の住宅会社から「集成材の剥離がある」との報告を受けて、同省が現地調査などを行った結果、農林水産大臣に使用を届け出していない接着剤「水性高分子イソシアネート系樹脂」を使いながら、JASマークを貼付していた「不当表示」の事実が判明した。

問題の集成材はドイツのアントン・ヘッゲンシュタールのベルカ工場から、昨年6月から今年6月にかけて出荷された、スプルーースとオウシュウアカマツの構造用集成材。

イソシアネート系接着剤は、いわゆる「白ノリ」と呼ばれるもので、美観の問題と接着剤に含まれるホルムアルデヒド縮減の問題から、ここ数年で「黒ノリ」(レゾルシノール系接着剤)から切り替えが進んだ。

農水省では当該集成材の強度などについて「在庫品をJAS規格に基づき試験したところでは、すべての試験項目に適合していた」との声明を発表しているが、この「違

法集成材」を使っていた場合、施主との契約上問題になる可能性もあるから注意が必要だ。農水省はベルカ工場に対してJASマークの除去・抹消を求めており、ユーザーとの契約で「JAS製材を使う」などの条項を交わしていたら、「契約条項違反」としてトラブルを引き起こしかねない。

農水省や国土交通省、住宅・木材技術センターなどの関係機関は、ホームページを通じて背景説明や問い合わせ窓口についての情報提供をしているので、気になる方は下記のアドレスにアクセスしてみてください。

農林水産省

[http://www.maff.go.jp/www/press/cont/20020827press\\_4.html](http://www.maff.go.jp/www/press/cont/20020827press_4.html)

国土交通省

[http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha02/07/070827\\_.html](http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha02/07/070827_.html)

住宅・木材技術センター

<http://www.howtec.or.jp/gov/syuseizaisetsumei.htm>

## 最近数年の就職状況について

名取 雅 (I部28期)  
真鍋研究室助手

就職氷河期といわれて久しいですが、理科大建築学科も少なからずその影響を受けています。ここでは、過去3年の就職状況のデータから、その傾向をご紹介します。

近年の特徴としては、景気の良かった頃に比べ、就職活動の開始時期がとても早まっている事が挙げられます。学部3年生の冬から就職活動を開始する学生も少なくありません。また、これまでは主に文化系の学生がしていた、雑誌等に付属している「エントリーシート」を各社に送ったりインターネットで各社に登録をするといった事も、現在の理科系の学生の間では普通に行われています。これは、就職活動の時期が早まっていることが影響していると考えられます。

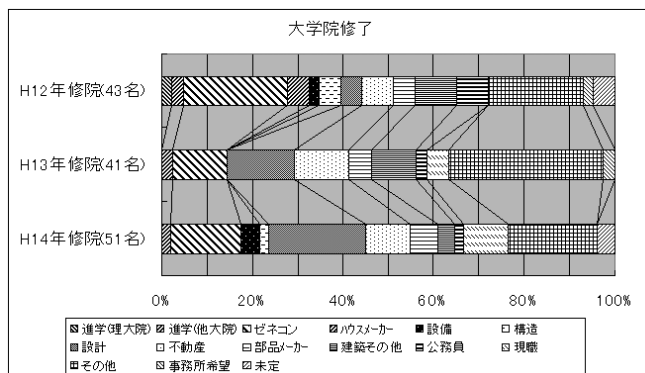
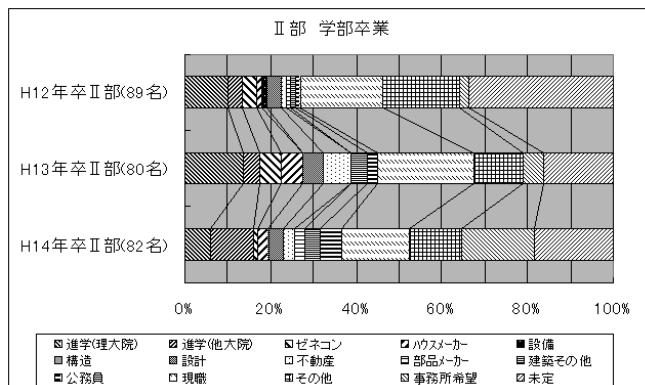
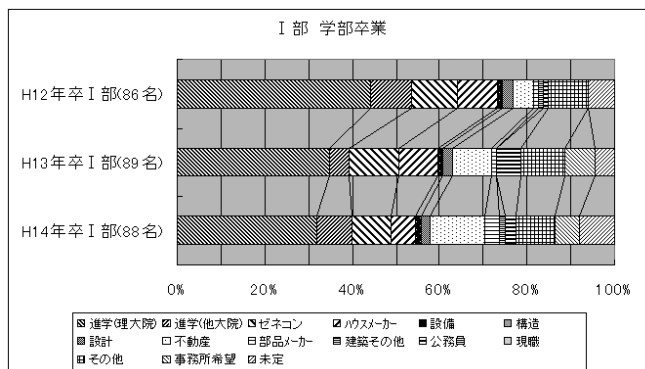
従来は、研究室の指導教官と就職について相談をし、自分の希望する業種で働いている卒業生にその業種の仕事内容等のお話を伺いに行くといった事が良くありましたが、今では4年生になる前に誰にも相談しない内に就職活動が始まってしまうため、以前に増して業界の事を何も知らないまま就職活動を進めている学生が見受けられます。指導教官から、「企業のホームページの内容やセミナーでの説明内容を鵜呑みにするばかりでなく、実際にそこで働いていらっしゃる卒業生の方のお話を伺って来なさい。」と研究室のOBを紹介され訪問してくると、学生は「会社の仕事内容がよく分かった」「卒業生に話を伺って良かった」「自分は今まで建築業界について何も分かっていないという事が良く分かった」等々、卒業生を訪問しお話を伺う重要性をここでやっと理解するようです。しかし、残念ながら多くの学生が、就職雑誌の情報や周囲の噂に流されてしまっている傾向は否めません。

さて、就職先の傾向を業種別に見ると、最近増加傾向にあるのが、不動産です。これはこの数年来のマンション業界の好調ぶりを反映していると考えられます。また設計事務所では近年、学部卒より大学院卒を採用する傾向があるとの事で、大学院修了者のグラフでもそのような傾向が分かります。そのため、学部卒業時には就職が決まらず「設計事務所希望」となっている学部生が見られるのだと思われます。

大学院(修士)進学率は、現在40%程度です。現在の4年生では、卒業見込み110名中、理科大大学院に進学が内定している者は41名です。平成12年は50%を超える進学率でしたが、不況の影響があるのか、やや減少傾向にあるよう

です。しかし、ここ数年、他大学の大学院への進学者が目立っています。以前は、他大学院へ進学する学生は稀でしたが、各大学で大学院の定員を増やしているため、このような傾向が見られます。進学先の大学院には、東京工業大学、慶応義塾大学、横浜国立大学、東京都立大学、東京大学などが挙げられます。

ざっとご紹介しましたが、いかがでしょうか。皆様にご卒業された頃と比べて、傾向が変わってきているのではないかと思います。最後に、卒業生の皆様には、来年の春頃に理科大の学生から「就職に当たって業界の話を伺いたい」と電話があった際には、是非ともいろいろと学生にお教え頂きたいと思っております。よろしくお祈りいたします。



	進学(理大院)	進学(他大院)	ゼネコン	ハウスメーカー	設備	構造	設計	不動産	部品メーカー	建築その他	公務員	現職	その他	事務所希望	未定	合計
H14年卒I部(86名)	28	7	8	5	1	0	2	11	3	1	2	0	8	5	7	88
H13年卒I部(89名)	31	4	10	8	1	0	2	8	1	0	5	0	9	6	4	89
H12年卒I部(86名)	38	8	9	8	1	0	2	4	1	1	1	0	8	0	5	86
H14年卒II部(82名)	5	8	1	2	0	0	3	2	2	3	4	13	10	14	15	82
H13年卒II部(80名)	11	3	4	4	0	0	4	5	0	3	2	18	9	4	13	80
H12年卒II部(89名)	9	3	3	1	1	0	3	1	1	1	1	17	16	2	30	89
H14年修院(51名)	0	1	8	0	2	1	11	5	3	2	1	5	10	0	2	51
H13年修院(41名)	0	1	5	0	0	0	6	5	2	4	1	2	14	1	0	41
H12年修院(43名)	1	1	10	2	1	2	2	3	2	4	3	0	9	1	2	43

新任講師紹介

山名 善之( I部25期)  
工学部建築学科専任講師

今年4月1日付けで工学部第2部建築学科に志水英樹先生の後任として着任いたしました。第2部の建築計画及び設計製図を担当し、授業は「建築計画 I-a (3年前期)」「建築計画 I-b (3年後期)」の講義科目のほか「設計製図」を担当しています。また「建築空間講義」(3年後期)を通して第一部の学生とも交流があります。

パリに8年間滞在しておりました。久しぶりの理科大生活です。皆様宜しくお願いします。

略歴

1966年、東京都生まれ。  
1990年、東京理科大学工学部建築学科卒業。  
1990-94年、香山アトリエ/環境造形研究所勤務。  
1995年、パリ建築大学ベルヴィル校DPLG課程(フランス政府給費留学生)  
1996年、パリ大学パンテオン・ソルボンヌ校博士課程。  
1998 - 2000年、文化庁在外派遣芸術家研修生としてアンリ・シリアニ・アトリエにて研修。  
1999年-2001年、国立ナント建築大学講師。  
2001年、フランス政府公認建築家DPLG取得。  
2002年、博士Ph.Dr (パリ大学パンテオン・ソルボンヌ校)取得。

member's forum

建築研究開発コンソーシアムに卒業生活躍

昨今の経済状況等により、建築系研究機関では、研究費や人材の不足、実験施設・機器の維持管理負担等により研究環境・体制が不十分な状況にある。成熟社会への移行も踏まえ、建築住宅にかかる研究開発の体制の整備を図る必要が感じられている。

このため研究開発期間や研究開発の動機を有する多様な異業種の民間企業などの幅広い結集を図り、強制的・連携的な研究開発の基盤としての「研究開発コンソーシアム」が7月に設立された。

異業種を含む研究開発シーズを育てる受け皿があれば、建築の技術開発は活性化する。

産官学それぞれがもっている新しい技術、研究者、実験設備などをあらかじめ登録して貰い、その中から最良の組み合わせを実現する環境整備がなされています。「開発バンク」の役割を担う建築技術の開発を活性化させようと、建築研究開発コンソーシアムが発足。

今後の活動

建築分野を中心に約600人の大学研究者リストを作成。異分野に広げ、コンソーシアムの積極的な参加を呼びかける。知

的所有権を確立し、共同取得した特許や異分野の特許を売買できる仕組みを構築する。技術開発委員会などを組織し開発テーマ( )の募集を始めた。共同住宅総合防犯システム ITを用いた居住環境・性能の向上 特殊な火災外力が想定される地下空間における火災性状の解明と安全性の評価 分散型蓄電方式の導入など。

コンソーシアムはその他にも、技術の普及方法の具体的検討まで取り組む予定で、国などが準備する、競争的研究開発資金を獲得するプロポーザルの準備も行う。中小のゼネコンや設計事務所の多くは実験設備を持っていない。コンソーシアムに加盟していれば大学研究者や企業の共同研究スタッフを集めることもできる。実験設備もお金を払えば借りられるように仲介して貰える。利用の仕方は色々考えられます。

コンソーシアムの初代会長には山之内泰之(独立行政法人建築研究所 理事長)が選任され、理事会社5社が参加、晴海に事務局が設置され、参加企業90社でスタートしました。

理科大出身者として、事務局側として 福山 洋(I部20期)、技術専門委員会幹事長として 木村宗光(I部1期)、運営委員会委員として 森本 仁(I部1期)が参加をしています。

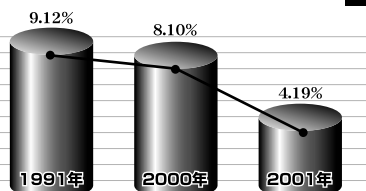
( 築理会副会長 = 森本仁, I部1期 )

データに裏付けされた確かな「実績」こそが真の「実力者」を生む!

平成13年度 1級建築士

全国受験者の

学科・設計製図ストレート合格者 4.19%



超難関資格を  
日建学院が  
強力にサポート!

教育訓練給付金制度指定講座有

案内書無料進呈

※支給条件がありますので、必ず最寄りの日建学院へお問い合わせ下さい。

〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-21-16日建学院ビル7F



0120-243-229

URL <http://www.ksknet.co.jp/nikken/>

E-mail [nikken@ksknet.coi.jp](mailto:nikken@ksknet.coi.jp)

全国130校・650常備教室建築関連資格教育のパイオニア

日建学院 株式会社 建築資料研究社

**築理会総会・懇親会の報告**

去る5月17日、神楽坂の理窓会館にて本年度の総会ならびに懇親会が開催されました。

総会では寺林副会長(2部1期卒)司会進行のもと、野々村会長(1部1期卒)の挨拶に引き続き、議事に移りました。すべての議案が出席者の満場一致により承認、可決いたしましたことをご報告いたします。

総会に引き続き、懇親会が開催されました。

大学からは平野先生、篠崎先生、真鍋先生、山名先生、多田助手のご出席を頂きました。

今年は天気の影響もあってか出席者数が25人と少数でしたが、その分密度の濃い交流がはかられたのではないのでしょうか。総会・懇親会の開催通知は、会報ならびに築理会ホームページで行っておりますが、より周知していただくための方策を検討していきたいと思っております。ご出席いただきました皆様、ありがとうございました。

(企画総務委員長 = 坂下誠, II部2期)

**インフォメーション**

築理会サークル活動のお知らせ

築理会事業委員会では会員の親睦をふかめるためサークル活動を行っております。皆様の参加をお待ちしております。詳しくは各担当に直接お問い合わせ下さい。

1. 写真同好会：大岩昭之(Ⅰ部3期)  
E-Mail: teru@rs.kagu.sut.ac.jp
2. 探索街歩き同好会：五十嵐真人(Ⅱ部8期)  
E-Mail: martvoice@hotmail.com
3. 登山同好会：市川尚紀(Ⅰ部28期)  
E-Mail: ichikawa@rs.kagu.sut.ac.jp
4. ジョギング同好会：入野公男(Ⅰ部15期)  
E-Mail: Kimio\_Irino@haseko.co.jp

FAXでお問い合わせの方、また、会員の皆様で楽しい企画があれば築理会FAXまでご連絡下さい。

**「編集後記」**

この号の特集では、建築現場での奮闘ぶりをOBの方々へ寄稿していただきました。大型建築から住宅まで、それぞれの現場の大変さが伝わったのではないかと思います。現場といえば、築理会の会報をつくっている当委員会も、毎号、緊張の連続です。手配したはずなのに特集の原稿が来ない、このあきスペースどう埋めよう、といった具合です。生みの苦しみが大きいほど、完成したときの喜びも大きい、というところでしょうか。

(森清=smori@nikkeibp.co.jp)

築理会報2002夏号  
2002年9月発行 Vol.31

発行所：東京都新宿区神楽坂1-3  
東京理科大学工学部 部建築学科  
築理会事務局 03-3260-4271(内3293)  
03-3235-6897(FAX)

編集長：森 清  
編集委員：広谷純弘、伊藤学、伊谷峰、安達功、千田猛、  
諸岡伸幸、中川信浩、平賀一浩、大野紋子  
印刷発送：グローバルシステム株式会社

**平成14年会費納入のお願い**

現在、平成14年度の会費の納入をお願いしております。同封の振込用紙にて、お振り込み下さい。

今後のさらなる築理会発展のため、多くの方のご協力をお願いします。

年会費 3,500円  
加入者名 築理会  
口座番号 00110-5-171952

**募集します！**

会報委員会では、築理会報の各コーナーへの記事を募集しています。どんな些細な情報でも首を長くしてお待ちしております。また、建築にこだわらず、おいしい料理の作り方や、うまいラーメン屋情報、あなたの楽しい旅行記、その他の記事・情報、また、はみだしチクリにもどんどんお寄せください。築理会あてFAX若しくは電子メールにてお知らせください。

**データ確認カード返送のお願い**

住所、職場、部署等に変更のございます方は、下記データ確認カードにご記入の上、築理会事務局までご返送下さいませお願い致します。

最新データに基づいた名簿作成、編集のためご協力をお願い致します。

送付先：築理会事務局 名簿作成委員会  
(FAX: 03-3235-6897)

築理会員データ確認カード		記入日: 20 / /
ふりがな:		卒業年 年3月
名前: (旧姓)		( 期 研)
		<input type="checkbox"/> I部 <input type="checkbox"/> II部
ふりがな/勤務先:		
ふりがな/部署・役職:		TEL
		FAX
電子mail:		
現住所: (〒 )		
		TEL
		FAX
電子mail:		
現住所以外の安定的な連絡先, 具体的な連絡方法及びTEL:		
所属学会		
<input type="checkbox"/> ( )	<input type="checkbox"/> 日本建築学会	<input type="checkbox"/> ( )
<input type="checkbox"/> ( )	<input type="checkbox"/> ( )	<input type="checkbox"/> ( )
通信欄		

お手数ですが拡大コピーをしてFAXにてお送りください。